

四谷の

千枚田だより



第 202 号



モリアオガエル

豊作を願って

振り返って：昨年は空梅雨で、さすがの鞍掛山の湧き水もヤットコサであつたが田植えは何とか出来た。田植え後も濁水は続き、五月十日には東三河の水瓶「鳳来湖」も貯水0%。二十七日には七か月半の溜った雨が一夜にして百五十ミリを記録する豪雨があり、千枚田も水飢饉を脱した。

それを思うと、今年の田植えシーズンには代掻きも田植えも順調に出来てヤレヤレ。百姓衆は鞍掛山の湧き水に豊作を託し、感謝、感謝。

朝、五時を過ぎるとバイクの音が静かな千枚田に木魂する。これは仕事(勤務)前の日課、「水見」で「何によお：置いても、水だけやあ、見にやあのおん：一日だつて見ん訳にやあいかんだでのん」と、イグラモグラやカニの穴を塞いでいる。これを怠ると田んぼは干上がってしまうし、後が大変でもある。

そして、千枚田ではバイクは田んぼの水見に、夜中にはイノシシやシ

カの威嚇に爆竹を、等々、活躍する大切な農機具である。

急傾斜地の「コメづくり」は苦勞が絶えない。すでに百姓衆は秋の収穫に「台風は来るずらあか：稲架が転ぶで、こにやあ、いいがのん」と、取り越し苦勞(無駄な心配)になることを願っている。

一口メモリなぞ、「田植え」で「稲刈り」か?、「稲刈り」なら「稲植え」では、と聞かれた。確かに理屈の合う質問であつたので調べてみた。答えとして、昔は籾の直播で稲作が始まったことが語源であつた。

お知らせ

鞍掛山麓四谷の千枚田展

市立鳳来寺山自然科学博物館では夏の特別展を令和二年七月十八日から八月三十一日、午前八時半から午後五時まで開館。鞍掛山麓にある四谷の千枚田の自然や歴史について展示、紹介します。

絵画コンクール作品募集

2020「四谷の千枚田」絵画コンクールを主催 鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局 共催 新城市・新城市教育委員会 で実施します。

応募対象は小学生・中学生。入賞者には本年度新米・図書券・五平餅セット他多数。問い合わせはNPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク ☎05332-29-0808

<http://kokukome.com/>

千枚田掲示板にチラシ・応募ハガキがあります。

開催にあたって

止まる気配のない新型コロナウイルス感染症の影響で世の中のすべてが自粛、自粛と委縮ムードの昨今、こんな時だからこそ、かえって明るい話題として小・中学生を対象に四谷の千枚田をテーマに自由に描いていただければと企画しました。

なお、この企画には千枚田五平餅として郵便局の宅配便や道の駅など、全国展開でお馴染みの(株)丸八製菓鈴木社長さんの千枚田への大きな思い入れから実現しました。

「四谷の千枚田」
絵画コンクール 2020
作品募集

受付期間 令和二年 8月1日～9月30日

テーマ 「四谷の千枚田」 四谷の千枚田の「自然」や「農作業風景」、「体験学習」など、白地に描いてください

応募対象 小学生・中学生

応募方法 チラシと一緒に配布される専用ハガキでご応募ください

審査 10月中旬以降に鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局が応募者の中から入賞者を選出

主催 鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局

共催 新城市、新城市教育委員会

問合せ NPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク ☎05332-29-0808 (株)丸八製菓内 (当NPO法人ホームページ: <http://kokukome.com/>)

入賞商品 当NPO法人ホームページに記載
本年度新米・図書券・五平餅セット他多数



応募してね!

第六十九回 JAアグリラリー



六月六日、JA愛知東は参加者八十八名が旧連谷小学校に参集。九時半、主催者による挨拶、注意事項、ストレッチ体操を行い出発。第一中継ポイントの身平橋海源寺で保存会小山会長から千枚田の概要説明を聞き、早苗が爽やかな千枚田を堪能、急坂をフウフウと、涼風に癒しを得ながら大代の第二ポイントへ「上から観るのもいいのん」と眼下に広がる絶景にご満悦。帰路は大林經由で途中の松脂岩の石積棚田やモリ

アオガエルの卵塊群落を横目に全員が完歩。完歩賞に名物「神田コンニャク」を戴き、参加者は、次回の東栄地区の第七十回アグリラリーへと夢を馳せた。

作業道「橋」の改修

六月十六日、千枚田作業道の水車小屋横の橋の改修を行った。この橋は、作業道に直角に架かっており、通る軽トラも左右数cmしか隙間がなく、沢山の軽トラに傷を負わせた難所でもあった。



どっかの「おっかちゃん」は新車

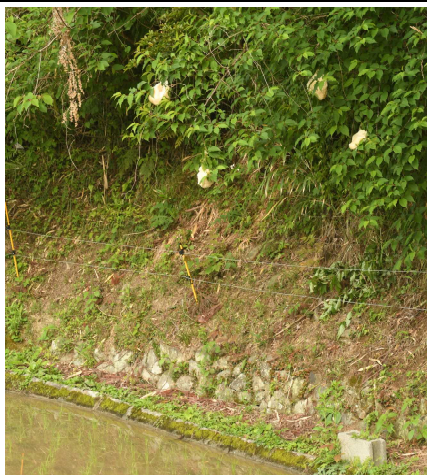
のドアを凹まし、「まあ嫌だ！」と泣きペソを、地元の偉いさまも、用もないのに通って橋(軽トラ)のあつちつこちに傷を負わせ、役場に怒鳴り込んだそうだし、田んぼに通う百姓は「通れるすらか：当たりにやあいが」と、自動車学校にも無い難所に神経を尖らす、ストレスの橋でもあった。

そんな、こんなの難所の「橋」に見かねた中村直人親子は皆んなが安気に通れるようにと橋の改修を行った。手伝いながら、それとなく聞いたところ、鉄板も業者に頼み、切断、曲げまでやつてもらったそうで、「掛ったらあ」と聞いたところ「わしら、千枚田の新人だ、このくらいは当たり前」、わしらも通るだでのん」と屈託のない返事に胸の内、只々「ありがとうさま」を唱えた。

モリアオガエル&ホタル

・モリアオガエル例年になく多くの産卵がみられた。特に多く卵塊がみられたのは英国BBCが山から雌が背中に雄を負い、田んぼに掛る梢に産卵、山に帰るまでを長期撮影した場所に、二回の産卵で約四十個体の卵塊が確認された。また、大林の漆島の田んぼには今までに百

個近く産卵。かつてない記録であった。この場所(漆島)に集中して産卵した原因は、この場所より上の産卵分布域の水田が全部休耕されたことにある。いずれにしても、生物、自然の叡智には驚かされる。



・ホタル生物多様性条約第十回締約国会議を契機に繁殖を開始、以来九年、昨年、一昨年はホタルの乱舞に「和(なごみ)の里」を夢見たが、今年には少なかった。その原因を検証すると、昨年の繁殖期の渇水、豪雨など気象条件が影響したものかと思われる。夢に終わらせたくない、そうだ！カワニナに餌をやる。

行 令和二年七月一日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二